

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズボンド平田		公表日		年 月 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		発達支援室は〇〇mあり、十分な広さを確保している。	利用者が多く、時間帯によっては混雑したり、動線が重なる場合があるので来所後の流れや区間の活用について都度見直ししていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		おおよそ、子ども2人に対し一人の職員を配置しており適切である。	配置を工夫し、より細やかな支援をしていけるように努めていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	4	備品は整理整頓されており、使いやすくなっている。入り口に若干の段差はあるが、現状車いすでの利用はなく、スロープを配置しての対応も可能である。	必要に応じてバリアフリー化への検討、段差などへの対応をしていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日、アルコール消毒で備品等は清掃をしている。子どもの特性に合わせ、パーティションをするなどの配慮もできている。	清潔に保つ工夫はされているが、備品の中には老朽化が進んでいるものもあるので日々の安全点検をしっかりと行っていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		クールダウンが必要な場合は、学習室や職員室を使用し居場所の確保はできている。	個別の空間を区切りやすい簡単なパーティションがあってもいい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		受入前ミーティングや職員会議にて、従業員全体で業務を共有している。	より参加できる機会を増やすために短時間のミーティングを細かく設けてもいいかもしれない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	送迎時、相談支援時、モニタリング時等や日々のラインや電話でご意見をお聞きし、柔軟に対応している。	送迎時や電話対応で受けた意向等についても、より正確に受け止めていけるようにしていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		毎日ミーティングを実施しており、職員の意見を聞き取り入れている。	職員間での意見交換を更に活発に行っていけるよう仕組みについても改善していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1	第三者委員会は設置していないが、福祉科や相談支援事業所等の意見を参考にしている。	福祉課や相談支援事業所等からの意見を参考に業務改善に活かし続けていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	オンラインと研修を随時行っており、外部研修にも積極的に参加している。	職員同士でも事例の共有を行ない、学びの機会を増やしていきたい。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		ホームページに公表している。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		複数の職員でアセスメントを行い、児発管やCPPなどの専門家を交え、課題を客観的に分析し、計画を作成している。	アセスメントの質向上に向け、記録方法や情報共有の工夫を進めたい。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		個別支援計画を作成する際には、指導員やCPP等も参加し共通理解の下でこどもの利益を考慮した検討をしている。	アセスメント内容の事前共有や短時間打合せの機会を増やし、十分に検討できる体制づくりを図りたい。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		個別支援計画は職員会議やミーティング等で周知され、計画に沿った支援を行っている。	支援に向けて理解を更に深めるべく、職員会議や話し合う機会を増やすことを検討する。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	フォーマルアセスメントでは、主にASISTやVineland-IIといった標準化されたツールを使用している。日々の行動観察は、個別支援記		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		個別支援計画には、必要な項目をすべて網羅された計画書になっている。また、具体的な支援内容も記載されている。	職員間で確認項目を統一し、児童ごとの支援内容をより具体的に設定できるよう取り組みたい。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		原案を担当職員が作成し、職員で話し合っ決定している。	職員間で活動について振り返る時間もよく取り、活動について見直す機会もしっかりとるようにしていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	グループ内の活動を参考にして、固定化されないように立案している。	定期的な子どもの興味関心や季節にあったプログラムの内容になっているか見直し、必要に応じて改善していく。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	1	子どもの特性に応じ、個別と集団を組み合わせた計画を作成、実施している。	個別活動、集団活動ともに丁寧に計画を実施し支援を行っているよう職員間での共有の機会を継続して作っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	毎日、受入前ミーティングを行い連携して支援を行っている。	送迎のタイミングによっては参加できない職員もいることがあるので、個別に打ち合わせを行うことを欠かさないようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	業務終了後に、ミーティングをして振り返りをしている。	気づきの要点を簡潔に整理できる仕組みを整え、より継続的に支援改善へ生かせる体制づくりを進めたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		個別支援記録は、欠かさず記入し改善に役立てている。	記録内容の整理方法を工夫し、検証結果をより計画的な支援改善につなげていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	1	少なくとも半年に一度はモニタリングを行い、中間評価を行い、必要な見直しを行っている。	内容を職員間でより簡単に共有できる機会、仕組み作りを検討していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		①自立支援と日常生活の充実のための活動、②創作活動、③地域交流の機会の提供、④余暇の提供 の複数を組み合わせた活動を行っている。	活動後の振り返りで内容について見直しを行い、複数組み合わせ基本活動をしっかりと行っていけるよう改善を続けていく。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	8		いくつかの活動では、自己決定する力を育てることに重点を置いている。	自己選択が難しい子どもには、自分の意見を伝える手段を増やせるような支援の充実を考えていく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児発管だけではなく職員が同席することがよくある。	情報共有や打ち合わせの強化により、他の職員も多角的な視点で状況を伝えていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		福祉課や教育機関とは常に連携を取った体制を整えている。	連携をとった体制を継続していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		毎月、キッズbond通信と活動予定表を各学校にお渡しし共有している。	必要に応じた情報共有をよりスムーズに行える仕組み、連携を考えていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8			就学前の施設との連携は取ったことがない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		障がい福祉サービス事業所と連携を取って情報共有している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8			児童発達支援センターと連携を取ったことはない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	4		そのような活動を計画したことはない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	3		自立支援協議会は、ほとんど機能していない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		連絡帳で日々の様子はお伝えし、家庭の様子も共有できている。必要な場合は、相談支援や送迎時に伺っている。	子どもの状況をより丁寧に伝えあうことが出来るよう情報交換の機会を設けていく。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2		相談支援時に、家族の対応力を図るアドバイス等は行っているが、家族の参加できる研修等はできていない。	
関	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に口頭で説明している。また、いつでも閲覧できるように入口にファイリングしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		子どものニーズを最優先に考え、家族の意向にも反映させながら計画書を作成している。	意向確認の機会をさらに工夫し、より丁寧に反映できる体制づくりを進めていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		完成した計画書を提示し丁寧に説明後、同意を得ている。	保護者がより理解しやすい提示方法や振り返りの機会を工夫し、同意形成をより丁寧に進めていきたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		必要に応じ相談支援の場を設け、ラインや電話での相談は随時行っている。	保護者が相談しやすい環境を今後も必要に応じて充実させていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	5		保護者会やきょうだい同士で交流する機会はまだ開催できていない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		その都度、本部と連携を取って迅速に対応している。	記録様式の整備や周知方法の見直しを進めることで、保護者がより安心して意見を伝えられる体制づくりを進めていきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月、キッズbond通信と活動予定表をご家庭にお渡ししている。また、FacebookやInstagramに活動の様子をアップし共有して	保護者が必要な情報をより見つけやすく整理し、伝わりやすい形で発信する工夫を進めていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		書類はすべて鍵付きの書庫で管理している。PC内のデータは抜き出しできないように設定している。	職員間で管理体制を都度見直し続け、より安全性の高い環境を維持し続けられるようにしていく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		絵カードやタブレットを使用して情報伝達をしている。	子どもの特性に合った情報の伝え方を、工夫し実践していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	行事に地域住民を招待したことはない。近隣の方には、活動を理解してもらえるように日々努力している。	近隣の方に向けても出来る範囲で情報発信を行い、理解を得ていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	3	マニュアルを策定し本部主導で、訓練や研修を行っている。	各マニュアルの内容をより実践に即したものに更新し、職員全体で共有する研修機会を増やしていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		避難訓練は毎月行っている。BCPは策定済み。必要な研修や訓練も行っている。	マニュアルの要点を現場で確認しやすい形に整理し、迅速な行動につなげていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		フェイスシートにて確認している。	日々の変化も把握できるよう、職員間で共有方法をさらに整備していきたい。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギーのある子どもに関しては、医師の指示書をいただくようにしている。	定期的な確認と更新の流れをより整備し、周知方法の見直しにも取り組んでいきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	1	安全計画は作成済み。必要な研修や訓練も行っている。	職員間での定期的な情報共有を行い、研修・訓練を継続して行える仕組みを考えて行っていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		キッズbond通信やSNSで周知共有している。	保護者様にも取り組んでいる内容についての周知していただけるよう発信方法を工夫していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットが上がった場合は、職員会議を開き再発防止の協議をしている。	ヒヤリハットが上がる機会が少ないので細かい事案も注視し、検討する機会を設けられるよう職員間で意識を共有していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	1	虐待防止の研修や委員会を開催している。	日々の支援場面での気づきを共有する機会をさらに増やし、職員全体で理解を深めたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		身体拘束適正化委員会を設置し、必要な研修や訓練を行い、需要事項説明書に明記している。	職員間で基準について具体的に、丁寧に共有・把握を行い、保護者様への説明も分かりやすく行っていく。	